

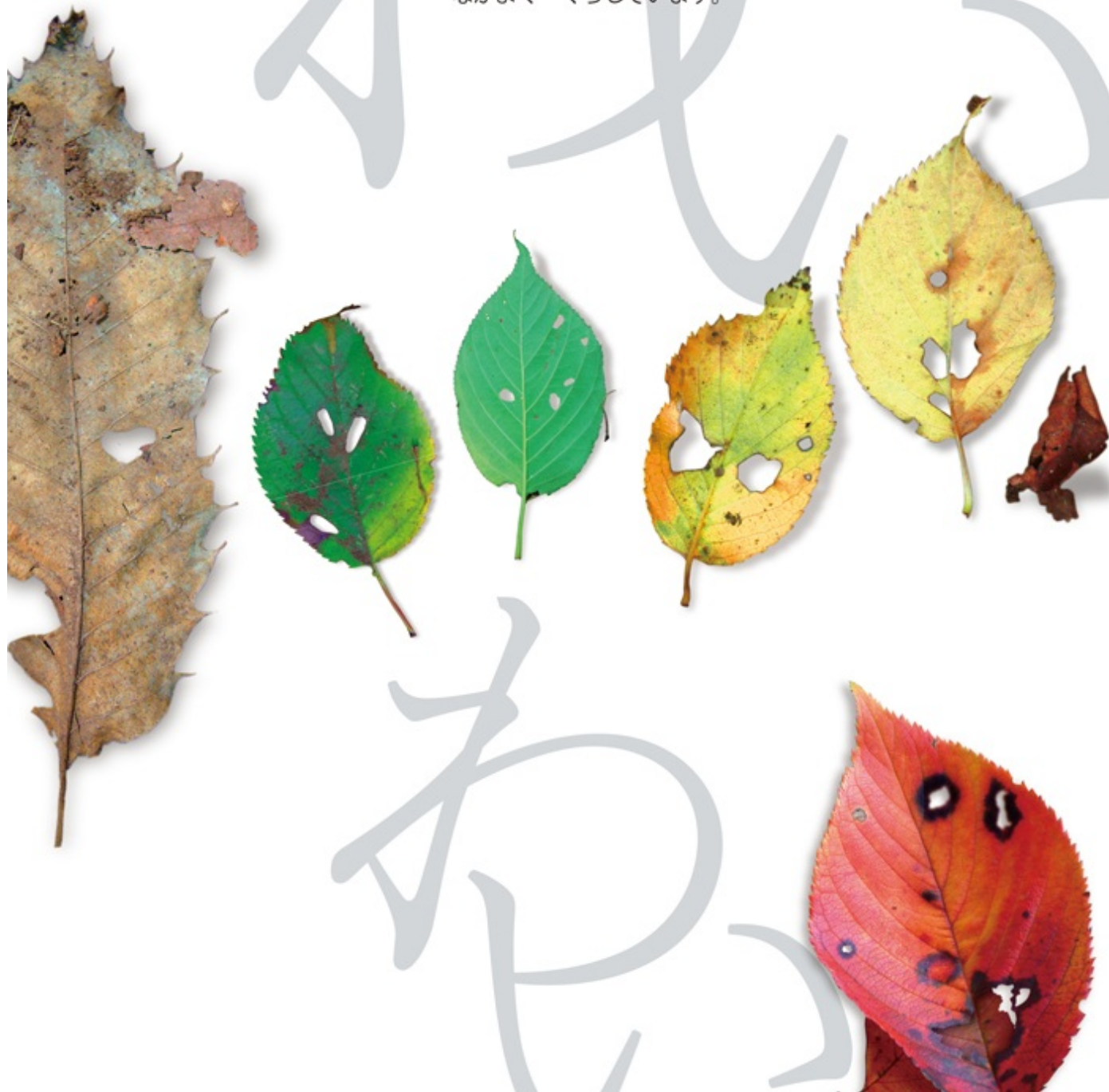
いっままで

FOREVER

A story of leaves.



この村の 木の葉たちは こどもから おじいちゃん おばあちゃん まで
なかよく くらしています。





こどもたちは としよりを たいせつにします。
としよりは こどもたちに 村のきまりを おしえます。

心



画

争



ときどき こどもたちは けんかをしたり わるふざけを します。
こんなときには おにいさんたちが けんかを やめさせます。



乃物

乃物



ある日 まだわかい みどりの葉が 村はずれの 森のなかで あそんでいると
つよい風が ふいてきて どこか とおくまで 飛ばされてしまいました。

あ



いったい ボクは どこまで 飛ばされたんだろう？

あ



まわりを見ても いままで 見たこともない ものばかり。

しばらくすると また風がふいて ボクを 森のなかを はこんでいきました。
舞おりた ところは ちいさな村でした。

ボクの村に かえってきたのかな？

ぐるりと まわりをしてみると
なにか ようすが おかしいのです。





たね



ここの村は みどりの葉たちと きいろの葉たちしか すんでいないみたい。



この村の 木の葉たちは とおくから ボクを 見ている。



ボクは この村の 木の葉たちを おおきなこえで よんでみました。



だれも こたえてくれません。 どうして？ どうしてだよ！
みんな どこかへ いってしまいました。

ボクは 村のなかへ はいっていきました。

この村の あちこちでは あらそいが なんにちもつづき
あそろしい まいにちなのです。





このあらいは ますます ひどくなり
どうすることも できなくなっていました。


ボクの心のなかで ねむっていた さけびの炎が
めらめらと 燃えあがり
いかりとともに おおきな声で さけびました。



あらい

おおきな声は まっ赤な木の葉となり
あらそいの中に 炎のように
立ちはだかりました。





炎のような木の葉は
村の 木の葉たちの心に ひろがった
うらみや うたがいの まっ黒な雲を ふき飛ばし
おちつきを とりもどしました。



あつた



ボクは ふと きがつくと
いつのまにか おじいさんになっていました。
ボクのまわりには わかい木の葉たちが あつまっていました。

この村の 木の葉たちは
まいにちのくらしに たいせつなものを
見つけたのです。





この村の おじいさんたちが
あつまってきました。
こどもたちや わかものたちも
あつまってきました。

むかしむかし この村では
まいにち まいにち
あらそいが つづいていたころ
その中へ 立ちはだかり
あらそいを とめた
ゆうかな わかものの 話を
ひとりの おじいさんが
かたりはじめました。

こどもたちや わかものたちは
しずかに ききいって いました。



むかしむかし